

光葉ワーキングクラブメールマガジン



<2020年11月号>

161号 2020.11.02 配信

新型コロナ危険度レベルの高い首都圏ですが、天気が良く、空気が澄むと遠くに富士山や筑波山を見ることができる季節になりました。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

感染症拡大を受けて、春からの在宅勤務、テレワークが続いている方も多いのではないのでしょうか。通勤の必要性が無くなり、からだを動かす時間がグッと減り、気が付かないうちに運動不足に陥り、ドライアイ・視力の低下・めまい・首から背中にかけての凝りや痛みなどを誘発する「VDT 症候群」になる人も多いと聞きます。これからの時期を、コロナに加えてインフルエンザ対策をしつつ、皆さまがお健やかに過ごされますようお祈りいたします。

■同窓会だより

◆第47回光葉同窓会総会（11月21日）は皆さまの安全を最優先に考え、規模を縮小し、議事のみを実施いたします。総会出席に代えまして、会員の皆さまからは葉書にてご意見を頂戴しております。

◆今年の第28回秋桜祭（テーマ『舞-100×2020-』）はオンライン開催となり、光葉同窓会も参加いたします。昭和女子大学HPの秋桜祭サイト（21日（土）10時頃に公開予定）からアクセスしてご覧いただけます。（動画を閲覧する際はYouTubeにページが移動する可能性があります。）

■学園だより

◆昭和女子大学創立100周年記念式典

日時：11月9日（月） 11:00～12:20（予定） 会場：人見記念講堂

◆昭和女子大学創立100周年記念シンポジウム「女性リーダーは世界を変える」

日時：11月9日（月） 14:00～16:00 応募締め切り：11/2（月）

会場：ライブ配信による視聴（事前登録制・先着1,000名）

お申し込み→ <http://www.asahi.com/ads/swu>

◆故人見楠郎第2代理事長の祭壇設置

11月4日は人見楠郎理事長のご命日で、ご逝去されてから20年になります。

11月4日（水）10:00～9日（月）17:00、学園本部館1階ロビーに祭壇設置。

◆墓前祭 11月5日（木） 11:00～ 松陰神社

◆光葉博物館からのお知らせ

昭和女子大学創立100周年記念「徳川将軍家を訪ねて—江戸から令和へ—」

第Ⅱ部 女性によって継がれた徳川将軍家と井関隆子日記

2020年11月7日（土）～12月5日（土）

◆図書館からのお知らせ

「昭和女子大学創立100周年記念特別展・新収貴重資料展Ⅱ
—昭和学園を築いた人々—」10月27日（火）～11月25日（水）

馬場あき子氏の特別展示は11月7日（土）～12日（木）の期間限定です

事前予約→ [昭和女子大学図書館展示観覧・見学予約フォーム](#)



■ 広げよう光の葉

及川 廣子 さん

2000年 短期大学部国語国文科卒

「世の光となろう」

コロナ禍の見通しがつかぬまま、令和2年のカレンダーも残り2枚となりました。先日、光葉同窓会比護会長より「広げよう光の葉」の原稿のお話をいただきお引き受けはしたものの、何を書いたらいいのだろうと迷いました…それは私が生粋の昭和女子大学生とは言えないかもしれないと思ったからです。

亡母が大切にしていた鎌倉彫のミニ筆筒の引き出しに、学割の定期券と昭和女子大学校章の大切な品があります。昭和58年12月25日迄 年齢35歳 青葉台一三軒茶屋、定期期限のこの時は、昭和女子大学短期大学英文科二部の学生で、担任は西脇先生と副担任の岸野先生。クラス仲間は編入を目指す10代、私と同じく就職しながらも短期大学卒業の資格を願う20代、一番年上の私は仲間から「お母さん」と呼ばれていた…というかすかな記憶。この時、母の介護のために、残念ながら卒業は叶いませんでした。

退学から10年目50歳の時、私は社会人入試で再度、昭和女子大学短期大学の国文科二部に入学することができました。満開の桜の咲く校庭での入学式の記念写真。そして何よりも心に響き鮮明に覚えているのは、当時の短期大学学長からお聞きした「世の光となろう」の校訓でした。年齢に関係なく学ぶ仲間や担任の高木先生と元吉先生、随筆の授業の太田先生との夜間の時間の共有は、短いながらも「青春」そのものでした。誰よりも母が喜んでくれて、二人の子供達に母の入退院や自宅での介護など随分と助けられ、52才無事に卒業することができました。

卒業後は幹事をさせていただき、「2000年卒・顔は見ないで」と自己紹介し、生粋の昭和女子大学卒業の皆様とご一緒させていただいています。学んだ短期大学部は廃止となりましたが、校舎の前を通ると英文科でお世話になった先生方をクラス会でお招きする計画が果たせなかったこと、学生である私の方が年齢は上ですが西脇先生の訃報に心が痛みつつ、当時が懐かしく思い出されます。

退職一年前に港区に移り、今は港区と関わりながらボランティア活動、地域活性や港区と他県との全国連携実現に頑張っています。また、5年前から構想の「赤坂・一期一会プロジェクト」を立ち上げました。コンセプトは出会いです。

3月、実話を題材とした児童小説「今越君という友だち」を発刊しました。出会いを大切にし、頑張れる源は当然ながら「世の光となろう」昭和女子大学の精神が、今も私を支えてくれているからです。昭和女子大学で学ぶことを諦めず、2年間の学生生活をおくれたことで、私の心にしっかりと「世の光となろう」精神が刻まれたと、古希を過ぎて、改めて感動している次第です。 【End】